

名古屋鉄道

安藤 隆司新社長

一〇年、二〇年先を見据え 経営基盤をさらに強固に



リニア中央新幹線の二〇二七年開業へ向け、名古屋駅周辺が変貌を遂げようとしている。名古屋が飛躍に向かっていているこの時期に、中心的な役割を担っている名鉄グループの総帥、名古屋鉄道の新社長に、安藤隆司氏が就任した。六年ぶりの社長交代。地域を牽引するリーダーシップに期待が高まっている。（聞き手／中部財界フォーラム 社代表取締役塚本隆）

——社長就任時と、現在の心境をお聞かせください。

安藤 指名されて初めて、大変なことになったな、と思いましたね。自分に大きな役割が課せられ、責任の重大さを実感しています。当初は不安がありました。今は、前向きに、積極的にやるしかない、と思っています。

——社員への訓示、伝えられた社長の方針は。

安藤 我が社はお客様の安全を守っている会社です。鉄道、バス、タクシーもあれば、トラック、船舶、航空会社もあり、運行の安全確保が最大の責任であり、事業の大前提です。歴代の社長が言っ

きたことですが、そこを再チェックしてください、と申し上げました。

抽象的ですが、私どもの商売は「名鉄」に対する安心感、信頼で成り立っています。競争社会では、コストなどいろいろな面でお客様は企業を選ばれますが、最終的に私どもを利用していただけるのは「名鉄」への信頼があるからだと思います。安全確保に加えて最良のサービスやおもてなしを続ける事で、社員にはお客さまから得られる信頼を積み上げてほしいと伝えています。また、

当社の事業の根幹エリアは鉄道が走っている愛知県、岐阜県を中心とする中部圏です。この地域を豊かで便利な住みやすい地にする。とで、流入人口が増えることが私どもにとつては重要。まずはしっかりと地元を固めましようと思っています。

——これまでの経験の中で、特に印象に残っている仕事は。

安藤 人事部と東京の支社には二度配属され、最も長い人事部では通算一三年の勤務となりました。

た。人事の仕事は裏方、会社や事業を裏から支える部署です。社員が安心してゆつたりと、実力を発揮して仕事ができるよう努めました。でも、人事の仕事はうまくいって当たり前、失敗は社員、組織にとつてマイナスですから厳しい仕事でもありましたね。東京支社での勤務では、立法と行政という、中央の仕組みがよくわかりました。当時出会った中央官庁の方々や、東京で出会った方々との人脈は今も財産になっています。

——文化レジャーの部署では。安藤 楽しかったですね。今はグループ会社が運営しています。が、当社は早くから文化・レジャー事業に取り組んできました。明治村は、本年五〇周年を迎え、リトルワールドも他にはないユニークな施設です。

開業当初の人氣がひと段落し、世の中的にもこの種の施設の閉鎖が相次ぎ、当社施設も老朽化やイベントのマンネリ化などが起きていた頃に、施設を統括する部署の課長になりました。お客さまを呼び込んでくる仕事でした。

で、あれこれ試して、苦勞もありましたが、企画、発想がピタリと当たると大きなリターンがありましたね。ただ、ものすごく苦勞したり、投資を行っても、天候などに恵まなければ結果は実らない

関係者と共に築く名駅新時代

——六年ぶりの社長交代です。この期間の名鉄の成果、課題をどうとらえていますか。

安藤 私ども名鉄グループにはグループ会社を通して全国、海外へと広く事業を展開した時期がありました。人口が増え、日本経済が拡大する中で、レジャー、輸送、不動産など幅広く展開しましたが、バブル後には事業を縮小した歴史があります。そして、二〇〇五年の愛知万博開催、中部国際空港開港と地域が盛り上がりしましたが、その後のリーマンショックの影響を受け、これまで以上に経営基盤を固めなければいけない時期に山本会長が社長を務

し、逆に天候に恵まれただけで、来場者が一気に増えることも。自分たちでは計れないことで結果が出たり出なかったりすることに一喜一憂していましたね。

め、リーダーシップをふるわれました。一昨年度から経営指標もよ



名駅のランドマーク名鉄百貨店